

## 講演概要

### 「混迷する欧州と国際秩序」研究会

年度末公開シンポジウム（2019年3月6日（水）15:00～17:30、於当研究所大会議室）



#### <概要>

○日時：2019年3月6日（水）15:00～17:30

○会場：日本国際問題研究所大会議室

○プログラム（敬称略）：

- ・開会の辞 中山 泰則（当研究所所長代行）

#### 〔第1部 2018年度欧州の政治情勢〕

- ・報告「ポスト複合危機の欧州」遠藤 乾（北海道大学教授／当研究所客員研究員）
- ・質疑応答

#### 〔第2部 英国のEU離脱とそのインパクト〕

- ・報告①「英国のEU離脱—政治的側面」池本 大輔（明治学院大学教授）
- ・報告②「Brexitが欧州にもたらす経済・金融面での影響について」  
吉田 健一郎（みずほ総合研究所上席主任エコノミスト）
- ・質疑応答

- ・総括 遠藤 乾（北海道大学教授／当研究所客員研究員）

#### <内容>

日本国際問題研究所は、外務省外交・安全保障調査研究事業（『自由で開かれた国際秩序』の強靱性）の一環として、欧州の政治情勢の変動とその自由で開かれた国際秩序への影響について考察する研究プ

プロジェクト（「混迷する欧州と国際秩序」）を、これまで2年間わたり実施してきました。本シンポジウムは、その研究成果の一部を公開し、参加者から広く意見を募ることで、調査研究をいっそう充実したものにするために開催されたものです。

本シンポジウムでは、欧州の主要国で総選挙の相次いだ2017年に続き、2018年以降に生じている変動をどのように捉えるかが主題に置かれました。第一部では、2018年度の欧州政治をどのように位置づけるかを巡り、これを2017年の複合危機後の変動と、2019年に生じるであろう英国のEU離脱、欧州議会選挙、ドイツの州議会選挙などの大きな変動との間に位置付け、そのうえで様々な慢性的な問題への対処の必要が遠藤乾・北海道大学教授によって指摘されました。第二部では、英国のEU離脱をめぐる現状とその予測される課題・影響へと一層焦点を絞り、政治・経済の両側面から報告がなされました。まず、池本大輔・明治学院大学教授からはBrexitをめぐる課題、特にアイルランドとの国境を巡る問題について解題がなされた後、主に政党政治の視点から各政党の立場、イギリス議会の取り得る選択肢についての分析が行われ、現状の合意形成の困難がなぜ生じているのかが報告されました。後段では、吉田健一郎・みずほ総合研究所上席主任エコノミストから、Brexitのもたらす経済的な影響と金融面での影響が報告されました。経済面では、GDPや英国と大陸諸国との間のサプライ・チェーンへの影響をはじめ、多面的な影響が指摘され、また金融面での影響としてロンドンのシティを中心とした金融サービス業の被るであろう影響につき、緻密かつ実感に根差した議論が展開されました。

当日は約110名の聴衆が参席し、上記の論点を含む幅広い質問が寄せられ、活発な討論が展開されました。

（以上）